

小堀進

茨城県出身で昭和に活躍した水彩画家。初め、晩年の黒田清輝に洋画の基礎を学んだが、公募展に初出品以来、一貫して水彩画のみを制作している。郷里の水郷の風景を中心に、山や空、海など、独自の透明感のある画法で描き、洋画界における水彩画の地位向上に大きく貢献した。画風は、川や海、山や雲などスケールの大きい自然を単純で明快な構成によって力強く表現している。1940年、水彩連盟を結成し、その中心的な存在として活躍した。水彩画家として初めて日本芸術院会員となった。